汝墳貧家女

自言有老父

行哭音悽愴

孤獨無丁壯

郡吏來何暴

縣官不敢抗

督遣勿稽留

龍鐘去攜杖

勤勤囑四隣

幸願相依傍

適聞閭里歸

問訊疑猶强

果然寒雨 中

僵死壌河上

弱質無以託

横尸無以葬

生女不如男

雖存何所當

拊膺呼蒼天

生死將奈向

汝墳の貧家の 女むすめ

行ゆく哭して音 **悽愴たり**

みずか 自ら言う老父有り

孤独にして丁壮無し そうていな

郡吏来りて何ぞ暴たる

県官はんかん 敢えて抗せず

とくけん

督遣し りゅうしょう 龍 鐘 として去きて杖を 携う て稽留すること勿から

め

勤党が 四隣に嘱み

幸願す 相い依傍するを

適たま閭里の帰るを聞き

問訊す 疑うらくは猶お強いらるるかと
ゥヒボ

果然 かぜん 寒雨の中

きょう し じょうが ほとり

僵死す 壌河の上

弱 質 以て託する無く

横尸 おうし 以って葬る無

おんな 女を生むは男に 如かず

存すと 雖 も何の当る所ぞと

生死し 将た奈向せんと